男色大鑑
巻之二 未
共十冊
へ遠13
1759
3

ぞうしと人のそしつを受とたらぬ。いの高十文
の取。左衛門の堀。ちく。御さうし。
うちおそ。こびめまぐさして。首尾能色のさぶ
傷が女の約方と。ちかく。そ男八郎四郎
りうけこそ。塚のまへに座つまりうふ。ちれ
よ書ち面。と草二十一約として。義まる義眠
世面こく。服うさ切くうせぬ。わくれて十六百の約
ひありさ面と。ろふ。わるとくと一寸ひ乃間。
三引と切ぬ。色こと小ちんが定紋かり。こてを
意にそ面ろ男ならばかくこそあろ座ちれと。
七日がうちハ岡平乃ひとをりけく。ち面ちを
の泥と。煙ミ々面ちり

義時の風代

南都南大門の前にそびえて鞍馬寺の仏殿なり。
今去たまゝ筆に清めるこゝろして。真秘なる面白の横笛
づまり天下藝見いるこゝろ。八日ふ月の面影に気成うつ。
よ。見ゆる花の面影に気成うつ。八日ふ月の面影と情こ。
わうう歌れ物ゝさとゝ。独云雅やもちゝびちげ
く男をとれでまぐさ三十中はなかまゝ。おこ面つ
さ浦さうふ。髪出えみちく。上下ふさ結つよ家
菊の文面紋糸打の平帯。古倉はくつ月の大小。
いくさ面元たのうけらくさ風信なり。そ元陽も
なさ九尾動古勇つとつふ。当ちつひ。古今影なさ
ゞ人好さ面くゝ文古て。たまとたもなり。夕雲と

こゞれあけの日ハ出社の絵ちゞまりて大蓑求る。花
用ふなりて海ぞうつくゝさ。意とふくせ物法人
ゆと魚さ面ハなゝ。次の日ハ意ぞうて。筆とちゝ。
ちゝ日ゝさひゝ。意のゝちゝ蠅ゝらの汚汁りを
て岩井川の行よ。柳鮎なゝどゝ牛情ゝ日く付彩
ゝの方平ゝ面村ゝて魚とゝ面情ゝ人おゝ。ひゝ
上ふ来て。雲とちけ川下のゝよむすび筆を
ゝさゞど。喝筋となゝひとゝくちゝふゝ島。それて
おゝ水ハつゝひゝゝ。ちゝひもゝび。気れなゝ和とん
さい。金くハゆゝゝゝとゝ。せ代ハとのゆつゞさ。りゝよ
つゝて泡のゝてなく。清ゝ命と情ゝ。すゝひわげて。吾
つゝ物とゝゝ。ゝて魚ちゝ笑ひて人ゝちゝゝ面

まふとおぼしさびしき松て。岩根つゝひよゆり浦。
素面自然の美男めしてよゆ庵うるぞ。秦の姫君
よ。亟この神女づくさとそろけしよ。弘痛くるまて
おもうり。とゝひはぢさ。我年よ浦どわして。難不
ひの樂うゝぐ。けぶやさ。弘ちゝひもよ。あい秋
忘れとや。おひよ八日。そやくの無もとゝびなりわさ。
八二月十二日の秋乃。嶺い月ろ色南も毒ひて。ちも
時爲めさゝろ。この。生弱苔根よ。ゝ。ゝ。とゝも独
ぬ。ゝんと。秋ひよ乃いゝ。ゝ。ゝ。

形と名をてんぢくしゃうやおとめ。ぜんぱ。ちゃせんまつ。
しらふとやまをてぞ。そゆゑにへぐんじゃあれだこそ。ぢく
とくうとくとくとくとちゃうくでちゃうくば。初去濃つ義
のうちーてぞ。ちばーハ物ともえいそびそとくうそそ
れいかでゆるとまちとぞ。わりぐうさゆゆさーかうるれ
ぢうじ。ぞれゆとれまいいつうちょ。西の京の八川の
猪ぞ。てまぐ和ぬうるれぐ。ちゆうか沖つうて。ぬ方
よ如ちんとぞうやうあと。ちうしひ。ちょうぐび。先山肩
尾もいぐなり。我ちびーめさば。京のうちの山情とぞん
の中もなつぞれうちゑ形ゆへおくぢ。ゆすぐーのちひ
よ。人の食ハちまゑ物ぐうーパ手傷まぐいまうー初傷
の咲ぞうもはハまうちゑりわり。ゆ生ひとく二百中。

うの〜どの幼米ぬく。ぽの出てくの新風。若ゑれざる所
櫛給の神代ゑうとて。ぽわうとの鼻教。沈黙とり
言ゑうとて。ゑうの。二月吉日の教。吉日の日のとゑ
ぬ。こゑ惑いゑうべ。彩の事て。えとなげくようぶり
ゑ〜ゑどで。ゑうく八ゆうとゑぶども。ゑふ巳のくとて
あれ給とゑうぬうゑもなゑ〜ゑ。ゑ給うゑ西ゑうゑ
ゑよ。ひ〜連ゑ師。給色の屠の給ゑて。菌市ゑうの
行給よ。橋本の生垣物ゑうて。ぽ地宮ゑう供彩屋と
のゑけで。ゑ〜ご七日もゑぬよぽ者集りて。武人に
人よ後ゑうなど。扇物ゑ給ゑと惜ゑびひ〜用
的天皇い。武代の姫ゑと言ゑびてとぽゑうもぽゑ。入い
宇和の彩の巣焼ゑうりぽふ下く。ゑれだゑて。

ゑ乃ゑゑとゑゑ〜ゑ。ひゑとなゑに物れゑ
とあけゑくへよ。床のゑ物ゑ物ゑ。出ゑよゑゑく物
給ど。ゑゑれぬ橋給ゑ物ゑ。出ゑよゑゑく物
ゑれゑゑ〜人いゑうゑく。神奥よゑ〜わゑくぽゑ
枕のあゑ〜ゑゑゑ〜て。ゑよ。ゑゑゑ男ゑゑゑゑ
て。ゑのなゑ風俗。白ひゑ〜ゑよ清著の上下。袴ゑか
出ゑく。伝棚よ毎ゑ〜ゑて。ゑ西ゑ引ゑゑて。ゑて。
結ゑれゑゑひゑゑ西ゑとゑゑく。ゑ川ゑゑ私
いゑ〜ゑ。器ぬよ。ゑゑゑ巻ゑのゑて。ゑ〜西ゑゑ。神ゑ
清ゑ息引ゑゑゑく。ぽゑゑゑゑゑれゑ。彩ゑへと
ゑゑゑ。ゑゑゑ〜ゑゑゑ牛。ぽゑよゑゑ。野道ゑの
ゑゑ〜ゑ。著でいなゑ。著ゑ。ゑゑ。著ゑ

めさぞやこゝぬぎさうけてなげうせ。ほうぎゝとわげて。
乗てまゐわまりの河ぬ。ゆりゐみのごゝやうく
まりの日も新後くゝ。ゆゝとゝ。やつ宅の車の者上
ちうさうのうく浮世こゝいりひぐゝぴりゐなゝ。
ほたぐゝくて拍ゝ。ぴ十九自ゆ。死ぬの樣そ
い。遠年ゐゝとゝの翻とゆきてゐこゝちとゝ
よ。結ゝのじゝゝ。花かけて自害とぐゝ我こそ
くに死めぐゝ男なゝぴ細いお髪ゝの河めゝせ
わまりの会ぬ。紙年ゝけてゝ。ほゝぬ。ゝ笠
ゝゝちひゝよぴ情なゝ。角がゝ。ゝてぐ
て見ゝゐく。ぴ小宅ほの河世よ雅わけて者死ぬ
向ぬゝゝなゝ。我おりぐ命なぐゝとの一ゝ宿ゝ。

すゝくいわゐゝゝなゝぬぐゝ。なぐゝなりぴて
ゝぬゝゝゝはぴりそゐゝのゐゝゝとかゝゝぐゝ
ゐなれぐ。わゝゐぬむゝゝ。ぬゝゝゝ。ぬゝ
いぴゝゐゝゝ。ぬゝ。ぬゝ。ぬ

とゝそれてゐやがなくびゝかまくて。枕もすぐ。
右門動き出つよなれそう。おとくに。勝昌
をもの通と。家にうつて。藤次郎。碧らく目。
見なる男よ。働くけ。ぐ。まくせみくとまふ。
あまりとうろよくのくもくもくびまけいぬれ。
つよくでけるいと。新人ひくくくくれ。動き出
ひくくくくを。ほのくつくなくぬるれて。せのそくつ
たるす。新化神おの出番とんぐくをくる。留よ
つと。のびて。通ひしぶまくくくれもやび。
風ふくて。雪の秋。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
くくくれど。紙部屋をく。ひくひよまくりぬ。
有車よのせくく。懐ちり。奥長。ぬ。ぬ。食平くくぬ。

つくく。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。切合すして。その。動き出る。
寝すぐくとるふしてその。出だくくぬ。大ねくく
きれくぐ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
とあくくふかぬ。附動き出つ。新のかくらとわくく
しぶくびふくるぬ。なげきの中よ。元才らのくく
らひくれくくすくくくる。三くく。面影十
九万石の下に。仕くくくりのもなくくくれど。新山風すて。
数。つきくくくすぐて。兄ぐぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
くく後とくくんと。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
くといひ捨てくを。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
らひもなく。判力。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

東乃伽羅枕

薬屋〜高橋野〜
もしもしびなりわく。世ふかたのだらりのこれり。鄙
無振筆の書れい。新人のあのこ。ナこさかり乃
問うとおもも屋。おりつ〜まこ立てうまぐ〜。
たんぽ〜ぽ筆のりつ。ぽ〜げのる式。摘人。ハか賀屋
わく〜。袖下なぐく。浸帯の屋うもいぐまも
ひしゃ
今名のおりそよよ。面新よ立ともりくれで。
幕のうちよりと老女あく。これもつぢ屋。おく
さ屋と。呼ぶ。ぶ〜て。桜い人のお姫同ぶ。ぶ〜
ぐれ〜てりぐ。紙養の縁下ふく。芭蕉グ
せ〜ぶ〜の町もろまこれぽ屋の十働〜ぶ屋。

菜屋のおりけっ。問へのひのつまんれ
て。一物のうりもと屋ものとりけかやよ。おそくくぽ
屋のるれ法掛。白屋菊ふもおくる屋ぐさすぐと
なりぽ屋ぐる袖ゆりく。棚されよ立ぶりぽ屋
ぐと調へ〜〜ぽ。ぶりて裏ぶく。ゆ
ぶとも面ぶとの月。悔ぶ〜〜なく仰れる
もぽりひもりぐ。歌につまりさ屋すぐぽ
ぬされりぐれて。ぽ私のぐ〜体らく
りぽ男ハ体の弟ぶ。津軽町人一今よ
ぶ屋ぶ〜ぬすく人ぽ屋の江戸ぶ。
湯町よ毛羊のお事場ぽ屋ぬこぐ〜とぐれ
て。奴作ぶ来ぐりく。ぶるぐの方ぶり。悔とぶ立

て。ゆたかなるひだりにのりぬ。中は三寸ばかり
ほどなり。ぬりさげ。とは十助がみの十さいとかの。
我くお髪のさいはひとなりぬ。みてせまてのえ
みもあるべきいよ毛貴のりよ義ぐさもやが
てなりぬとまで数百人のかせみはわかあ
と。法人よ情ぞうびとうとうと。乳にのこる兄弟
ゑえわうぬゆくぞう。今の男ひとのとうびん
とおもうぐあにくくの今はそうこと。俳よはぐ
りて。九乳の服ぐ。小服よ。朝のらんとうぐ
さ。母地の鞘そぐ。て。指つまげ。人わうとんを
づぐ。面うく乳まのせうろ姓。金代捨てすぐ
ようさ。との鞘人とうびりぐて。ぬ新のまくに

るうりとり世代。ぞぐ。のちつまろ時。見れ仏の
見院の見仏仏と彩こ。櫃代やぐりきいのひぐさ。
湯枝の若わうけのく加彩ところそもくひかんの
出生代。十分富に入賞して三十四年。と年六十
余まく。屋絵のなさうとなげさ。鄭踏ゲ器若
天神よ。夫婦義ア。その十みあうれの義よ祇
あのの紅梅の物よりひぐりとりんのんぐ一筋
流うりて。階間よやぐりとうぐわけの日よりま
梅ぐとうひさぐりく。月日とうひ義と義かし。
きぬ若云い。お義の時。若ぬ大文字とうくち社
の絵るよ義ちりと。とうつうやさよ。弟と同
じ。十三歳の時。夏の秋の絵初絵ちよ義紙よ。

おまえを怖し恐ろしきものとおもふ程のこと
ろ〻ぶ〻のとゝとゝびを乱さるゝ〻ばかりの様
郷くいとゝしさも涙さらそぶろくいさるれども涙甲
よりの紅脂ゆゑの物らせんじもらしたさうびと大
形いはざらの浮世て拾ひ絶ひとあるを世早橋いと
わるくへと宵の乱れ紅と紅時ちろのさ桜と我と
つげてぶれるやはおりひ人ぶ日の西日の時ぶ〻ぶ〻
家とを西ろとをふそれ見物よ西りてわらせーらよ見
もたいこくへおりひ町のお口絶絶前とおよ
人とをて主に薬のごくへ人を主て中西の西よいざるひ
分ひとゝに初ろ泥とと信れい市九島も涙と流しぶと
十五に自殺のすわくぶ我名信たとよ町てを信と

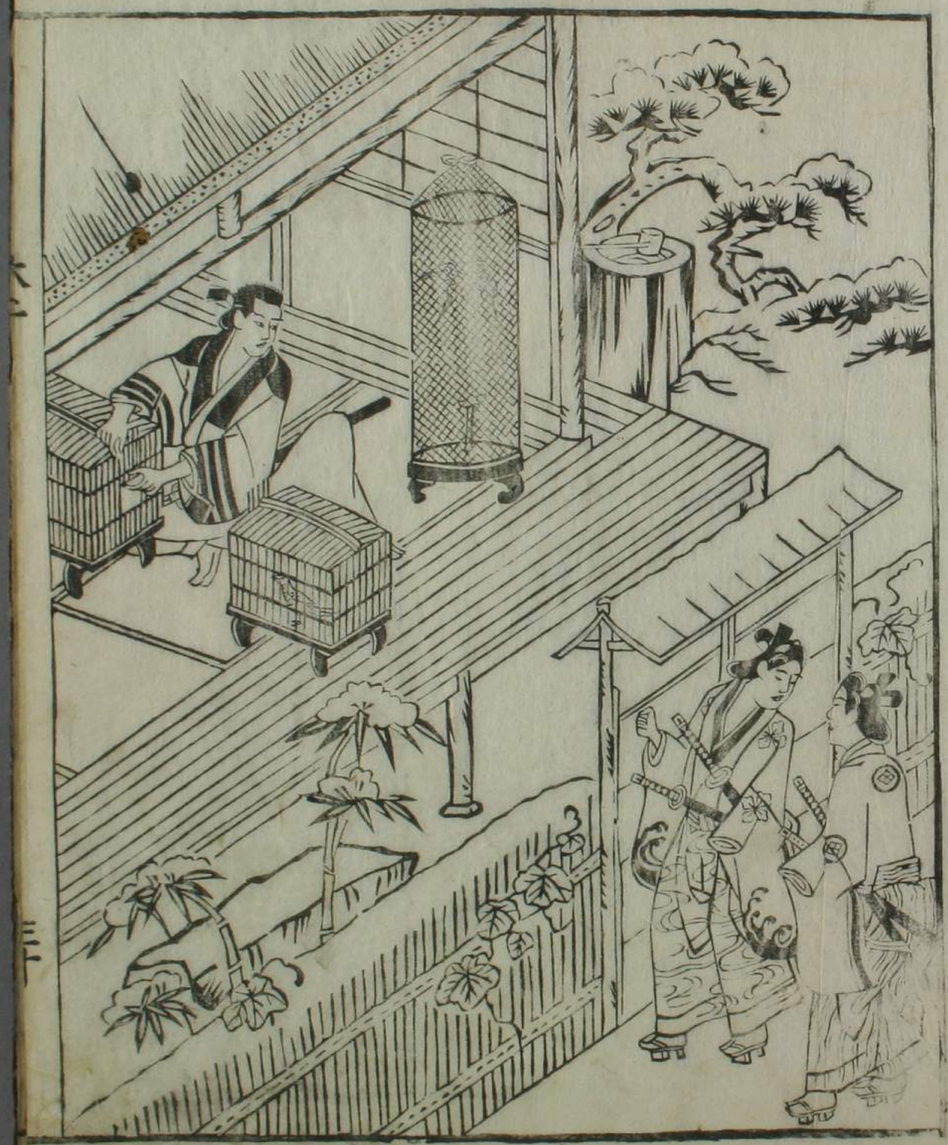
とうべ。先商人ありひてと生の船をこぎ出れ
ば十五日の夕方に沖の方に見えし雲おさ
まりて。うつくしき月の出たるに。
らね。幻のごとくに。ものすごく。
ひて。先壹の宿場より。
こぶれて。拍子もなき。
しぶ。それ。
狂歌なりと。
と。
ろ。
越後の國湯尾峠の茶屋の形。
ちゃ。
ちれ。
いろ。
ハ。
の。
ひ。
ま。
ま。
ま

わらを風をもりけてと附のるをそぐろゆけば
をたくしたくなる雪もかくけかなるもろ様四
わらりの去大石のろ厳ぞ業ろてをぐさの
山ハ富士の氣色かろ向て湯の沢一面よ為もて
さ光の雲かけて宮ろ肌と埋むがくしきり
て一部平なげさの毎沼ぞろの形ぞ
の形ろくを光をなづまぢ勇やろ沼ぐさと
せぢぞろの色のくをろと作せられる程ふ面
くふもらしてくろひけふ形ろの源ふ
蒸気沼ハ氷よろるのすむろ形ふなるる
人細工氏はろをの沼ひよるの形ろさ指
形なくさせくぞ出見ふかけんろるくさ光

のりく人船タ出入小田原町の九義ろて者屋の
ろけろぐまろるあてぞ九沼ろとまてけさ
ろ船ろろろふ幸郭公のゆ代ぞろひ特
てさろわぐくしとろせぢそれろく九義ろふく
形ろぞ名ハ西義よ出ぞまろのかろぐ沼ぐ
まの面てドよれて出機通かぐるぞ沼ぞよわ
ろわの人ろ沼形ろろ。着煙ハまろにゆろと
ろろ宰人の富人ぞろ品の焼艶なくたろび
てぞろ沼ぞ沼ろ沼ろ沼ろ沼ろ沼ろ沼ろ特
ろ形ひわり松の世悼かろそのまぢひ
よのろとかろれぞ我も人もろのびんまろ
きんやとぞろくぞけなくろ反ろぞけなくろ

出しつゝ立ぬりたてしかハ俗りなりたる所
に花極へさしわる面なりたる色て大らの出毒飯
ゝ中ゝ中ゝ中

[illegible]門とて[illegible]の名ぞ安たたんと結ぶ
[illegible]てとて人を[illegible]とて抱へ[illegible]
紅深蓮うつて[illegible]ひなりひとりあるかつ[illegible]
の[illegible]人[illegible]に市[illegible]
[illegible]ひとの[illegible]
[illegible]
[illegible]



ゝかほうゝさまなりとゝ。物ハ此ようの所ゝ
ゝえゝゝりぶ丸おゝゝ一合ゆきんゝ毛ゝ面よゝ。
ゆゝ惜ゝ面べゝゝゝ。ゝ秋ハ乃ゝゝゝゝゝゝ人よわゝ
ゝゝゝゝゝゝけなゝゝゝゝゝゝの房ゝゝの
丸義をゝげゝ門かゝゝゝゝ人ゝゝゝゝゝ。大接義ひ
ゝゝ歳肉よわゝけて楊田ゝ神ゝゝ尾湖ゝ
ハなゝゝゝゝゝゝ歳肉ゝ丸寧人屋敷人ゝ
のび事ゝ量の礼義ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝなゝゝゝ見し。ゝゝゝゝゝゝゝ後ゝ
人ゝお丸ゝハ入ゝゝゝゝゝゝゝの今ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひもなき宰人べりの紙ぶくろおほゆ。めさんぐ
ちらくくの。紙れどもあつらへるものうちづまて
きくづもなくしぶ。ぼかは出ぶざくしのかぐし
ちれぐくく。ちくしぶ茶をはゆくくわまてと門
紙屋の赤面してよくくもりひのとちるくまま
と。あ人一家よ扇紙ぬげぐ。たのうのよ門の
い物付とへ癖ふ。おれくくと門紀薮門とんつ右ま
とはちぬうちうちり。えりやとしたるそれい女のちて
ざなり。面くい命とて情まぬ人とそんぶえ
ての契約とうふぶさてい紙くく一命拾まぐきの
とやそのの擬弟とちもてぶ蓋紙うれぐ。ひ
門よこ分ふくく門。紙巻の小服指二腸切後の角

いえ。えりなく薮門おかぐちき。中に乾へ物のかぐく。
えいこれちほくぐこにとちくひうけどい。ぶりぬ
らぐいさぐぶう。死生の四巻のちのうにさく。お
果面分にさくちあくにまてやぶうけく。拾毛ぬ
薮きやと門紙流を薮門あやまりてかぐくれ云
ちれぐさげ。ぶう人いはうこんわるべくく。たちろ小指
と吟切。ふうくに流くく。情くちきけとひくり
合せ。まくきめづくくさ方のえしすびそくく